

品質の安定と高単価を目指して 枝豆の出荷目ぞろえ会



▲見本の枝豆を確認する生産者たち

当JAえだまめ部会は7月26日、酒田流通園芸センターで枝豆の出荷目ぞろえ会を開催し、生産者やJA担当者20人が参加しました。

目ぞろえ会では、同部会の藤井信治部会長が「生育に遅れがあるものの、病気もなくおおむね順調。今後も肥培管理を徹底し、高品位の枝豆を出荷し、高値取り引きにつなげよう」とあいさつ。JA担当者が出荷規格を説明し「早朝収穫や、鮮度を保つために低温で速やかに流通させることが必須」などと説明しました。

今年度、同部会の21人が「庄内ちゃまめ」を6ha、「白毛えだまめ」を2haの計8haで栽培し、9月末までに関東地方の市場に約30トンの出荷を見込んでいます。

庄内砂丘メロンの魅力をPR 第3回全国メロンサミットに参加

全国の主要メロン産地や行政機関などが一堂に集まり、メロンの魅力を発信しようとして、7月8日と9日、「第3回全国メロンサミットin鶴岡」が鶴岡市で開催されました。東北初開催となった今回は、14産地が参加し、およそ2万人が来場しました。

9日に小真木原公園で行われたイベントサミットには、当JAから園芸課とみどり販売課が参加し、庄内砂丘メロンや加工品をPRしました。ブースを訪れた人たちはメロンを試食して、「甘くてみずみずしい。とてもおいしい」と笑顔を見せていました。メロンのほか、小玉スイカやミニトマト、パプリカなども販売し、好評を博していました。



▲メロンの試食販売をする園芸課職員

ハサミで慎重に摘粒 「シャインマスカット」仕上げ摘粒研修会



▲果粒を傷つけないよう繊細な動作でハサミを入れる生産者たち

当JAは浜中の山形県産地研究室で7月25日、「シャインマスカット」の仕上げ摘粒研修会を開き、生産者12人と当JA園芸課職員が参加しました。

現地研修会は今年から「シャインマスカット」栽培を始めた生産者を対象に、来年以降の作業イメージをつかむため作業時期に合わせて開催したものです。今回で3回目の研修です。

研修では、産地研究室研究員から摘粒方法の指導を受け、実際に隙間なく果粒がついた房から変形した粒などをハサミで慎重に取り除く作業を行いました。参加した生産者は「繊細な作業だが、大きく糖度の高いブドウにするためしっかりと習得したい」と話していました。